

主な事業の進捗目標

区分	事業進捗量又は目標（今後10年）	備考
新水源の開発	つちや水源 2020年運用開始 滝の入水源 2023年運用開始	武石地域での水源調査も予定
施設の統廃合	湧水源：2減（13⇒11） 配水池：3減（101⇒98） ポンプ場：2減（49⇒47）	水源…角間、旗見原 配水池…新角間、横沢、須川 ポンプ…須川、神科
更新事業	管路経年化率：（32%）⇒ 25%	（）内の数値は2028（H40）まで 更新しない場合の経年化率
耐震事業	浄水場耐震化率：14% ⇒ 45% 配水池耐震化率：34% ⇒ 70%	基幹施設、基幹管路を優先的に更新
	基幹管路耐震適合率：40% ⇒ 72%	
	応急給水貯留量：9,300m ³ ⇒ 24,420m ³ 応急貯留日数：6.0日 ⇒ 7.8日	1人当たり応急給水量 災害～3日目：3L/人日、4～7日目：20L/人日 8～15日目：100L/日、それ以降：250L/人日
維持管理	有 収 率：84% ⇒ 90%	2021（H33）に90%達成 それ以後は維持する



概要版

上田市水道ビジョン

2019年度～2028年度
(平成31年度～平成40年度)

上田市水道ビジョン（概要版）

安全・安心、持続可能な水道をいつまでも

2019年（平成31年）3月発行

発行者 上田市上下水道局

編集 上田市上下水道局 上水道課

〒386-2292 上田市真田町長7187番地1

真田地域自治センター3階

TEL: 0268-72-4253 FAX: 0268-75-1381

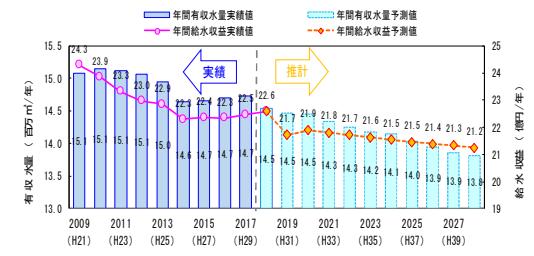
E-mail: josuido@city.ueda.nagano.jp

2019年（平成31年）3月

上田市上下水道局

水道事業を取り巻く課題

課題1 水需要の減少による経営環境の悪化



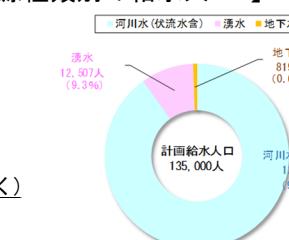
給水人口並びに給水量の減少による
給水収益の悪化、施設効率の低下

課題2 安全かつ安定した水源の確保

【水源種類別の給水人口】

【上田市の水源数】

河川水	6
伏流水	1
地下水	6
湧水	13 (予備除く)
計	26



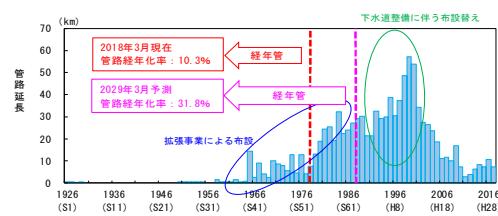
気象の影響を受けやすい湧水水源
(湧水による取水不良、大雨時の濁度上昇)

課題3 施設及び管路の老朽化

施設：大部分が1960 (S35) 年代に建設
→今後更新のピークを迎える

管路：1980 (S55) 年から2000 (H12) 年が布設ピーク
※管路更新なしの場合の経年化率
10.3% (2017・H29) → 31.8% (2028・H40)

(経年化率：法定耐用年数40年以上経過の率 H28全国平均：14.8%)



課題4 施設及び管路の耐震性の不足

浄水場耐震化率：13.7% (H29 全国平均：29.1%)
配水池耐震化率：33.9% (H29 全国平均：55.2%)
基幹管路耐震適合率：39.6% (H29 全国平均：39.3%)
全管路耐震適合率：26.1% (H28 長野県上水道事業平均：27.5%)

耐震化率は未だ低水準であり、耐震化の推進必要

課題5 技術の継承と職員の高齢化

上田市水道担当職員数：45人
うち、50歳以上割合：24人 (53.3%) (H28全国平均：35.4%)
水道担当職員平均年齢：49.1歳

若手職員が少なく、将来の人才確保に課題

基本理念・施策目標

水道事業をとりまく課題を踏まえ、基本理念は「安全・安心」はもとより、「強靭」「持続」への取り組みをより明確とした『安全と安心、持続可能な水道をいつまでも』とします。

また、国の新水道ビジョンが掲げる「安全」・「強靭」・「持続」の3つを踏まえて基本方針を設定し、それぞれの項目で上田市として達成すべき目標を“施策目標”として、以下のとおり設定しました。

安全

施策目標1 良質な水源の確保と維持

施策目標2 水道水の安全性のさらなる向上

強靭

施策目標3 災害時にも水道水の供給が可能な施設づくり

施策目標4 迅速な応急対策と復旧体制の構築

持続

施策目標5 企業経営意識による健全経営の維持

施策目標6 業務体制の強化と効率化

施策目標7 親しみがあり信頼される水道事業づくり

施策目標8 環境にやさしい水道事業の構築

施策目標9 他事業体との広域的連携

目標達成のための主な取り組み

安全な水の供給

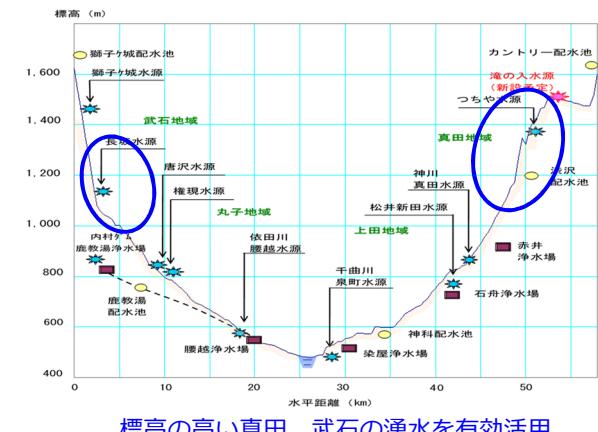
目標1 良質な水源の確保と維持

施策1-1 良質で経済的な地下水源の開発
・つちや、滝の入水源開発
・武石地域での湧水調査
施策1-2 水道水源の保全

目標2 水道水の安全性のさらなる向上

施策2-1 クリプトスピリジウム等への対策の徹底
・管ノ沢配水池への膜ろ過設置
施策2-2 水道水質管理体制の強化
・水安全計画や関連マニュアルの見直し
施策2-3 給配水施設での水質劣化防止

【水源の有効利用イメージ】



標高の高い真田、武石の湧水を有効活用

災害に強い強靭な施設づくり

目標3 災害時にも水道水の供給が可能な施設づくり

施策3-1 水道施設の計画的な更新と耐震化
・アセットマネジメントに基づく計画的な更新及び耐震化
施策3-2 安定的な送配水システムの構築
・送配水系統の見直しによる自然流加工エリアの拡大
目標4 災害時の迅速な復旧体制と応急給水体制の構築
施策4-1 被災水道施設の迅速な復旧体制の構築
・危機管理マニュアルの見直し、関連団体との訓練実施
施策4-2 緊急時の応急給水体制の整備
・応急給水補給所の整備、仮設給水タンクの整備
・浄水場やポンプ場への自家発電設備の設置

【今後10年の投資計画】

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	10年計
耐震化事業	診断に重点	計画	診断に応じた補強								3.5
耐震診断	0.8	1.2	1.5								7.1
耐震補強	0.2		1.0	0.2	1.2	1.1	1.4	1.4	0.6		0.5
計画見直し	0.5										6.0
更新事業											18.6
取水施設		1.8	1.5	1.5	1.2						9.7
浄水施設		0.7	2.0		1.2	1.2	6.0	4.0	3.5		80.9
送配水施設	0.2	0.4	3.8	3.5	0.5	0.8	0.5				23.5
管路	11.0	7.7	7.8	6.2	7.4	7.9	9.8	5.9	8.6	8.8	合計
その他	5.8	4.0	1.2	2.4	2.3	3.0	2.1	1.0	0.6	1.0	149.8
合計	18.2	13.8	14.7	14.9	14.9	14.9	15.0	14.8	14.7	13.9	年間平均投資額
											施設：約7億円/年 管路：約8億円/年 計15億円/年

安定した事業経営の持続

目標5 企業経営意識による健全経営の維持

施策5-1 水道水供給にかかる経費の削減
施策5-2 戦略的かつ効率的な投資
施策5-3 事業運営状況の把握と改善

- 漏解消による有収率の改善
- アセットマネジメントに基づく投資
- 経営戦略の見直し（2020年予定）
- 適正な水道料金の検討

目標6 業務体制の強化と効率化

施策6-1 技術継承による将来の人才育成
施策6-2 ITやAI等の活用による業務の効率化
施策6-3 民間活力の導入の検討

目標7 親しみがあり信頼される水道事業づくり

施策7-1 利用者ニーズの把握によるサービス向上
施策7-2 効果的な広報活動の実施

目標8 環境にやさしい水道事業の構築

施策8 水道事業による環境負荷の低減

目標9 他事業体との広域的連携

施策9 広域的連携による事業基盤の強化
・千曲川流域グループ、上小国域グループでの検討継続

【投資の健全化イメージ】

